

◇ 高学年部の研究 ◇

1 学年部研究主題

児童が創造的に音楽にかかわり、互いに高めあう児童をめざして

2 学年部研究主題設定の理由

高学年の児童は、社会性が高まり、他とのかかわりが広がってくる。そのようななかかわりの中で、互いの考えに共感したり、意見を交流したりして、自分の考えをよりよいものにしていくことが出来るようになってくる。

本校では、高学年の児童が下級生に歌声を伝えていくという伝統がある。そのため、児童は、日頃から響きのある歌声を意識し、積極的に音楽活動に取り組んでいる。特に、「うたごえタイム」や「音楽集会」などで他学年と交流をしながら、姿勢や口形、表情などに気をつけた歌い方を教えたり、歌声のお手本を示したりしている。そして、下級生がきれいな歌声で歌えるようにいい点をほめたり、アドバイスをしたりしている。合唱団や吹奏楽団に所属している児童も多く、南材の音楽をよりよいものに高めている。

音楽の学習においては、音楽を聴いたり、表現したりすることに意欲的に取り組んでいる。そこには、「きれいな声で歌おう」「上手に弾こう」という意識の高まりもみられる。また、中学年までに身につけた能力をもとにして、音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取ったり、自分の思いをもとに、表現を工夫して演奏したりしようとしている。さらに、友達と協力して試行錯誤しながら、音楽をつくり出す喜びも感じられるようになってきている。

そこで、よりよい表現を作り上げるために創意工夫を凝らしたり、音楽の曲想や特徴の違いを感じ取ったりする力をさらに高めたいと考え、高学年部主題「創造的に音楽にかかわり、互いに高めあう児童をめざして」を設定した。

3 学年部研究主題のおさえ方

ニコニコ輝く	キラキラ輝く	いきいき輝く
楽しくかかわり、表現の楽しさに気付き、音楽を聴く能力が育っている姿	進んでかかわり、表現の楽しさを感じ取り、音楽を聞く能力が伸びている姿	創造的にかかわり、表現の楽しさを味わいながら感じ取り、聞く能力を高めている姿

4 研究の視点

- (1) 思いや意図をもって豊かに表現し、創造的に音楽にかかわらせるための指導の工夫
- (2) 音楽の仕組みを生かし、見通しをもって表現する喜びを味わうための指導の工夫
- (3) 音楽の構成を理解し、自分の言葉で表現するための指導の工夫

5 公開授業の見どころと視点との係わり

- 本授業における視点とのかかわりは（1）である。
 - ・グループの中で一人一人の思いや意図が生かされるような学習形態
 - ・思いや意図を生かした表現を工夫するための観点の与え方
 - ・見通しをもって工夫するためのワークシート

6 高学年部会授業の指導案

第6学年音楽科学習指導案

平成21年11月27日(金) 5校時

場所 体育館

指導者 T1 6年2組 留守 智信

T2 6年1組 大蔵 興子

1 題材名 重なり合う音の美しさを味わおう

2 題材の目標

- 和音の響きの美しさを味わって聴いたり表現したりするようとする。
- 三部合唱の響きを味わって歌うことができるようとする。

3 題材について

(1) 指導要領との関連

〔指導事項〕 A 表現 (1) 歌唱イ, エ (2) 器楽イ B 鑑賞 (2) ウ

〔共通事項〕 (ア)・音の重なりや和声の響き・強弱 (イ) 音楽の縦と横の関係・反復・変化

(2) <題材観>

本題材は、学習指導要領の「A 表現」(1) エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聞いて声を合わせて歌うこと」、(2) エ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聞いて、音に合わせて演奏すること」、「B 鑑賞」(1) イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと」を中心に設定している。

ここでは、二部合唱+旋律伴奏、合唱のDVD鑑賞、三部合唱の活動が中心となる。曲の演奏においては、旋律の特徴を生かすための楽器を選んで組み合わせたり、歌声に合わせて、副次的な旋律を多彩に表現したりするなどの工夫をしながら活動することができる。これらの活動を通して、楽器と歌声や三部合唱の美しい重なりを味わい、さらによりよい表現を意識した演奏へとつながっていく。これまで学習してきた合唱・合奏の技能や高めてきた鑑賞の能力を生かし、楽しみながら演奏の仕方を工夫していくことができる題材である。

(3) <児童観>

本学年の児童は、音楽活動に対する意欲・関心が高く、楽しんで取り組む姿勢が見られる。昨年度より、音楽や体育などにおいて、クラスによる技能面の差を少なくするために学年授業を多く取り入れている。そこで児童は、学級の枠にとらわれずに互いの意見を交流したり、協力して活動したりし、自分たちの力を高め合っている。鑑賞能力に関しては、観点を与えることにより曲による音楽的な違いを感じ取る力が身に付いている。技能に関してはどちらのクラスの児童も発声、姿勢、読譜、楽器の演奏などの基本についてはおおむね身に付いている。表現に関しては、感受性、表現力のある児童は、自分の思いを言葉で表現したり、表現の方法を編み出したり、進んで工夫したりしている。その反面、恥ずかしい気持ちから自信がもてずに他人任せになってしまふ児童も見られる。

(4) <指導観>

これまで、他教科、他領域においても、合同授業を取り入れてきた。そのことで、自分のクラスだけでなく、他のクラスの児童も認め合い、友達の意見を広い視野で考えられるようになってきている。本題材においても、多くの発想を共有させるとともに美しい響きを味わわせるために学年合唱を取り入れる。

はじめに二部合唱+旋律伴奏として「勇気一つを友にして」を演奏し、声と声、声と楽器が重なり合う響きの美しさを感じ取って演奏させたい。次に、鑑賞曲として「赤とんぼ」「箱根八里」を聴き、女声合唱、混声合唱、男声合唱それぞれの特徴を感じながら、合唱の響きの美しさを味わわせる。特に、変声期を迎えた児童いるので、男声の役割やよさにも気づかせたい。

最後に、合唱曲として、「星の世界」を扱う。初めに、どんなことに気をつけて歌えばこの曲が美しくなるかについて、自分の思いをもたせワークシートに記入させる。次に、グループごとに美しい響きのある演奏にするために、思いを生かしながら話し合わせ、グループごとに練習に取り組ませる。そして、グループで話し合ったことを全体で共有し、学年合唱として仕上げる中で、三部合唱の声が重なり合う響きの美しさを感じ取らせたい。

グループ活動においては、児童が自主的に活動できるようにさせたい。そのため、見通しをもって学習活動に取り組めるようなワークシートを活用する。なお、指導については、TTで行う。全体指導についてはT1が行うが、グループ活動においては、グループの進度に合わせて役割分担し、支援および指導に当たっていく。

4 教材について

(1) ① 勇気一つをともにして

<小学校学習指導要領 第5・6学年との関連> A(1)イ A(2)イ

ギリシャ神話に出てくるイカロスの物語から題材を探った曲である。曲想の変化を感じ取つて表現を工夫するのに好適である。3フレーズ目からは、歌のパートに加えて楽器による副次的な旋律のパートが用意されているので、これも活用できる。主旋律の齊唱や独唱をし、低声部を加えて二部合唱や二重唱をしたり、また音色を考えたうえで楽器を選び、歌に合わせて副次的な旋律を演奏したりするなど多彩な表現を工夫しながら活動できる教材である。

(2) ① 赤とんぼ 作詞 三木露風 作曲 山田耕作

② 箱根八里 作詞 鳥居 忻 作曲 滝廉太郎

<小学校学習指導要領 第5・6学年との関連> B(1)ウ

① この曲は本来独唱曲であるが、ここでは活動のねらいに合わせて、女声三部合唱と混声四部合唱に編曲されたものを鑑賞する。また、歌詞の旋律の響きから、歌曲そのものの美しさを感じ取れるようにしたい。この曲は、中学校の教科書で歌唱教材として取り上げられているため、教科書には楽譜が示されていないが、縦書きの歌詞を参考にして歌ってみるのも効果的である。

② 歌詞の1番は第1章「昔の箱根」、2番は第2章「今の箱根」と題されていた。「荒城の月」同様に原曲は旋律のみであったこともあり、いろいろな編曲で歌われているが、この曲が力強い行進曲調であることや、歌詞の内容からも、男声合唱で歌われることが多い。ここでは活動のねらいに合わせて男声四部合唱に編曲されたものを鑑賞する。

(3) ① 星の世界 作曲 コンバース

<小学校学習指導要領 第5・6学年との関連> A(1)エ

① アメリカのコンバースが作曲した賛美歌で「いくしみ深きともなるイエス」が原題である。主旋律以外のパートは音の動きを少なくして、優しく歌えるように編曲された三部合唱になっている。小節ごとに変化する和声は簡明で美しい響きを味わいやすいのでこれまでの学習経験を生かし、三部合唱を楽しむことができる。メゾやアルトパートは変声期に入った児童でも無理なく歌うことのできる音域であるので、こういう面からも活用できる曲である。

5 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽的な 感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	声や音が重なり合う響きに関心をもち、美しい響きを求めて意欲的に表現しようとしている。	声や音が重なり合う響きを感じ取って、美しく響き合う合唱や楽器の演奏の仕方を工夫している。	声や音の響きのバランスに気をつけながら、歌ったり、楽器で演奏したりすることができる。	いろいろな演奏形態による合唱の響きや、歌曲の美しさを味わいながら聴くことができる。
学習活動に	①声や音が重なり合う響きを感じ取りながら、関心をもって範奏を聴いている。 【Aと判断するキーワード】	①声や音の重なりの美しさやバランスに着目し、それに基づいて工夫して演奏している。	①ピアノ伴奏や他のパートを聴いたりしながら、正しい音程で歌うことができる。	①声や音が重なり合う響きの特徴を感じ取って聴くことができる。 【Aと判断するキーワード】

おける具体的評価規準	<input type="checkbox"/> 鑑賞についての態度や感想 ②美しい響きを求めて意欲的に合唱や器楽の演奏に取り組んでいる。 【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 積極的な練習態度や発言 <input type="checkbox"/> 多様な試行	【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 歌い方やパートの音量のバランスの違いの感受 <input type="checkbox"/> 美しいハーモニーの感受	【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 正しい読譜 <input type="checkbox"/> 正確な演奏 ②互いの声や音に耳を傾け、バランスを考えて歌ったり、楽器を演奏したりすることができる。 <input type="checkbox"/> 響きのある発声 <input type="checkbox"/> バランスを考えた演奏	<input type="checkbox"/> 作品のよさについての明確なとらえ ②大人の声やいろいろな合唱形態に興味をもち、それぞれの響きの違いに気づいて聞くことができる。 【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 作品のよさについての明確なとらえ <input type="checkbox"/> 自分のイメージや演奏との比較を通しての鑑賞

6. 指導と評価の計画(10時間扱い)

	主な学習内容	題材の評価規準	指導要領との関連	共通事項		評価方法等
				(ア)	(イ)	
1	○範唱を聴き、音の重なり方や曲全体の感じなどについて気付いたことを発表する。 ○曲の広がりを感じ取って範唱に合わせて歌う。	ア-① エ-①	B(1)ア	・音の重なりや和声の響き ・強弱		行動観察
2	○どのように工夫して演奏するとよいか発表し合う。 ・楽器を選び、曲の感じ、音色、音量のバランスなどの工夫する観点について気付く。 ○グループごとに練習する。 ・曲の感じ、音色、音量のバランスなど、どんな表現をしたいか話し合いしながら、音色やリズム、奏法に気を付けて練習する。 ○グループ同士で発表をする。 ・工夫した点や今後練習していくたい点を確認し演奏する。その後、グループ同士でアドバイスし合う。	ア-② イ-①	A(1)イ A(2)イ			行動観察 演奏聴取 ワークシート
3	○学年合唱奏をする。 ・各グループで工夫した点を明確にして発表をする。それをもとよかつた点はみんなで共有し、それを生かして学年合唱奏をする	イ-①	A(1)イ A(2)イ			行動観察 演奏聴取 ワークシート
4	《赤とんぼ》 《箱根八里》 ○DVDを鑑賞し、大人の声やいろいろな合唱形態に興味をもち、それぞれの響きの違いに気づいて聞く。また、女声合唱、混声合唱、男声合唱それぞれの特徴を感じながら、合唱の響きの美しさを味わって聞く	エ-②	B(1)ウ	・音の重なりや和声の響き		ワークシート
5	《星の世界》 ○楽曲を聴く。	ウ-①	A(1)エ	・音の重なりや和声の響き ・音楽の縦と横	・音楽の縦と横	行動観察

	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、声の重なり（合唱のパート）など気付いたことを発表する。 ○どんなことに気をつけて歌えばこの曲が美しくなるかについて、自分の思いをもちワークシートに記入する。 ○パートを決め、パート練習をする。 			<p>声の響き ・強弱 ・反復</p>	<p>横の関係</p>	ワークシート
6	<ul style="list-style-type: none"> ○和声の響きに注目して、グループ練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・I IV Vの和音の進行について感じ取らせ、正しい音程で歌うときれいなハモニーになることに気づかせる。 	ウー①	A(1)エ	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりや和声の響き ・強弱 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の縦と横の関係 	演奏聴取 ワークシート
7 (本時))	<ul style="list-style-type: none"> ○響き合う三部合唱にするためにはどのように演奏するとよいか発表し合う。 ・これまで学習してきたことをもとに、和声の響き、パートバランスなどの観点について確認する。 ○グループごとに練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・美しい響きのある表現にするために、観点をもとに話し合いをしながら、練習する。 ○グループ同士で発表しあう。 <ul style="list-style-type: none"> ・気をつけた点を確認し演奏する。その後、学年合唱に生かせるようにグループ同士でアドバイスし合う。 	ウー②	A(1)エ			
8	<ul style="list-style-type: none"> ○学年合唱をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時のアドバイスや改善点を生かして学年合唱を完成する。 	ウー②	A(1)エ			

7 本時の指導 (7 / 8)

(1) 本時のねらい

パートバランスを考えて、三部合唱の重なり合う響きを感じ取りながら歌うことができる。

(2) 研究の視点と学年部研究の視点との関連

【研究の視点 1】

「思いや意図をもって豊かに表現し、創造的に音楽にかかわらせるための指導の工夫」

- ① 子どもの思いや意図が学習の中で深められ、互いに高め合うことができる学習形態の工夫
- 初めに、一斉学習でグループ学習の進め方について共通理解を図る。グループ活動では、自分の思いや意図を明確に出来るようワークシートに自分の考えを書かせる。そのことにより自分の考えをもち主体的に学習に取り組むと考える。そして、活動が個→グループ→学年となっていくうちに、一人一人の思いや意図が、共通の思いや意図となって美しい響きのある学年合唱になることを感じ取らせたい。

グループ構成においては、人数、伴奏者、リーダー等に気をつけ、技能・表現等の差がないよう配慮する。このことにより、グループ内でも互いに教え合い、高め合うことができると考える。

② 表現技能を高めるための指導の工夫

- ・題材全体を見通して、一人一人が思いをもって学習に取り組めるようなワークシートを工夫する。
- ・児童の到達目標を明確にし、表現技能を高めるために、上手に演奏できているグループの演奏を紹介する。
- ・子供同士での相互評価を行い、グループだけでは考えられなかった表現の工夫に気づかせるために、アドバイスカード（付箋）を活用する。

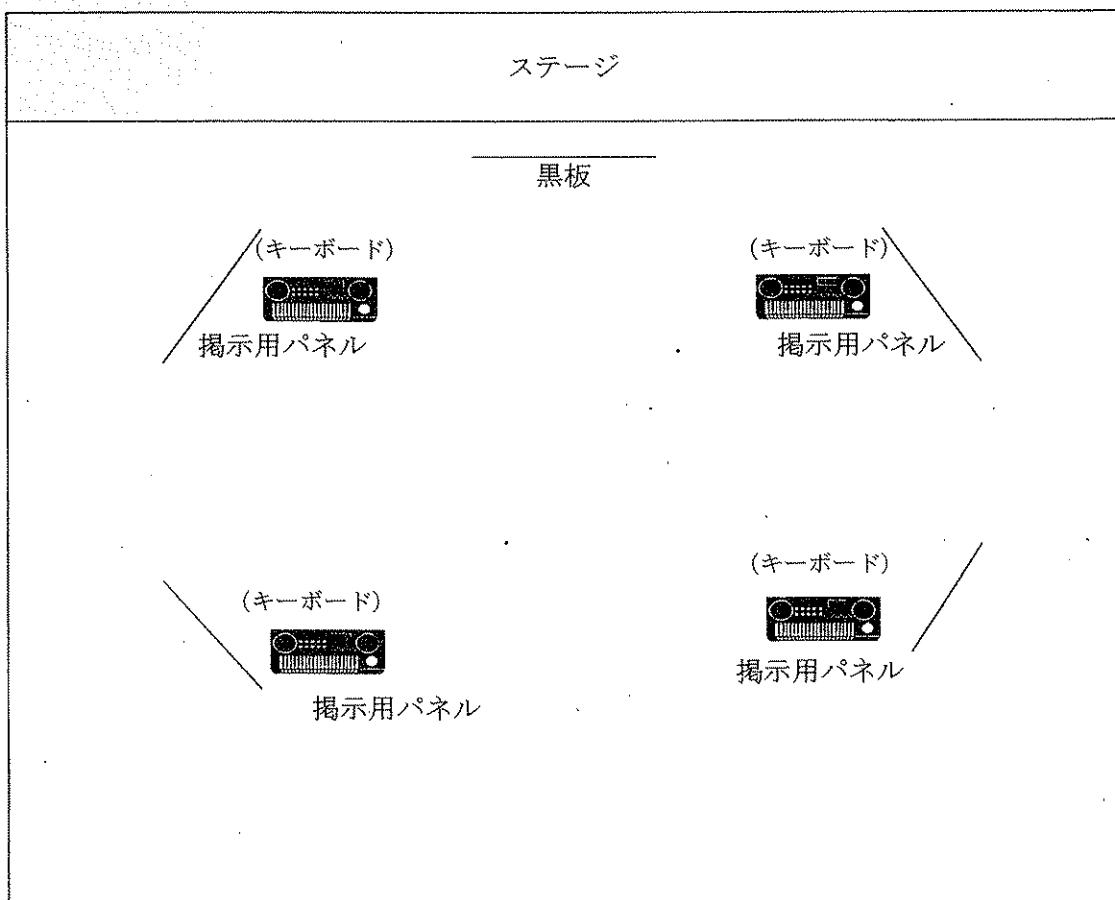
(3) 学習活動の展開と評価

主な学習内容・活動	☆教師の関わり ↗評価
1 「星の世界」を聴く。 ・きれいな合唱にするためにはどんなことに気をつければよいか考える。 ○和声の響きやパートバランス ○強弱	☆2グループを抽出し、録音した歌声を比較鑑賞させ、気づいたことを発表させる。 (T1全体指導, T2補足) ☆聴く観点を与える。 ☆気づき具合によっては再度聴かせる。
2 本時の課題を知る。	
	きれいな響きのある三部合唱にしよう ～パートバランスに気をつけて歌おう～
3 課題にむかってグループ(ABCDの4グループ)ごとに練習に取り組む。 ①歌う ← ②気づいたことを発表し合う ↑ ③練習方法を考える → (例)・さらに小グループで歌う ・CDを聴く ・隊形を変えて歌う ハンドサインを使って歌う 音量を変えて歌う	☆紹介したい子供やグループにその都度発表させ、よりよい表現になるよう声がけする。 ☆歌い方を楽譜で確認したり、実際に歌って確認したりしながら、きれいな響きのある歌い方にしていくよう声がけしていく。(T1, T2声がけ指導) ☆自分のパートと他のパートのかかわりを意識せながら練習させる。 ☆聴きあうための隊形作りを工夫させる。 ☆周りの音を聴くことを意識させる。 ↗評価標準・・・ ① 声が重なり合う響きを感じ取って歌うことができる。 Cへの手立て ・音程の不安定な部分は、パートごとのCDを聴くなどして確認させる。 【Aと判断するキーワード】 □歌い方やパートの音量のバランスの違いの感受 □美しいハーモニーの感受 ☆聴く観点を提示しグループ同士で話し合わせる。 (T1, T2 グループ指導)
4 グループ同士(AとB, CとD)で発表し合い、良かった点や改善点を話し合う。	●課題はできているか ・和声の響きやパートバランス ・強弱 ・その他
5 話し合ったことを生かして、グループ合同(AとB, CとD)で合唱し、聴きあう。	☆歌い終わった後の響きも意識させる。 ☆この時間の高まりを深め、意欲と自信をもって合唱できるように声がけする。 (T1全体指導, T2声がけ指導)
6 次時の予告 ○それぞれのグループのよいところを生かし、学年合唱を完成させることを知らせる。	☆発表会は、授業参観に行うことを知らせる。 (T1全体指導, T2児童観察)

(3) 学習活動の展開と評価

主な学習内容・活動	☆教師の関わり ↗評価
<p>1 前時を振り返る ・班でたてた課題を発表する。 ○パートバランス ○伸ばす音の重なりなど</p> <p>2 本時の課題を知る。</p>	<p>・きれいな響きのある三部合唱になるように、自分の課題を明確にさせる。 (T1全体指導, T2補足)</p> <p style="text-align: center;">きれいな響きのある三部合唱にしよう ～パートバランスに気をつけて歌おう～</p>
<p>3 課題にむかってグループ (ABCDの4グループ) ごとに練習に取り組む。</p> <p>①歌う ← ②気づいたことを発表し合う ↑ ③練習方法を考える → (例) •さらに小グループで歌う •CDを聴く •隊形を変えて歌う •ハンドサインを使って歌う •音量を変えて歌う</p>	<p>☆紹介したい子供やグループにその都度発表させ、よりよい表現になるよう声がけする。 ☆歌い方を楽譜で確認したり、実際に歌って確認したりしながら、きれいな響きのある歌い方にしていくよう声がけしていく。(T1, T2声がけ指導) ☆自分のパートと他のパートのかかわりを意識せながら練習させる。 ☆聴きあうための隊形作りを工夫させる。 ☆周りの音を聴くことを意識させる。</p> <p style="text-align: center;">♪評価標準・・・ウー ② 声が重なり合う響きを感じ取って歌うことができる。 Cへの手立て ・音程の不安定な部分は、パートごとのCDを聴くなどして確認させる。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 □歌い方やパートの音量のバランスの違いの感受 □美しいハーモニーの感受</p>
<p>4 グループ同士 (AとB, CとD) で発表し合い、良かった点や改善点を話し合う。</p>	<p>☆聴く観点を提示しグループ同士で話し合わせる。 (T1, T2 グループ指導)</p> <p>●課題はできているか ・和声の響き ・パートバランス (ボリューム) ・その他</p>
<p>5 話し合ったことを生かして、グループ合同 (AとB, CとD) で合唱し、聴きあう。</p>	<p>☆歌い終わった後の響きも意識させる。 ☆この時間の高まりを深め、意欲と自信をもって合唱できるように声がけする。 (T1全体指導, T2声がけ指導)</p>
<p>6 次時の予告 ○それぞれのグループのよいところを生かし、学年合唱を完成させることを知らせる。</p>	<p>☆発表会は、授業参観に行うことを知らせる。 (T1全体指導, T2児童観察)</p>

(3) 場の設定



7 学年部研究の計画と実践概要

日付	学年・名前	題材名
10/21	5年2組 林 祐毅	想像したことを音楽で表現しよう
11/27 (公開)	6年1組 大蔵 興子 2組 留守 智信	重なり合う音の美しさを味わおう
1/20	5年1組 片岡 裕美子	重なり合う音の美しさを味わおう

